

バスケットボールにおけるディフェンス・ディレクションに関する研究

沼崎 弘貴 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 佐々木 直基

キーワード：バスケットボール ディフェンス ディレクション

1. 緒言

バスケットボールのマンツーマンディフェンスのシステムは、ベースライン側に追い込むディフェンス（ファンディフェンスシステム）とそれとは反対のミドルライン側に追い込むディフェンス（ファネルディフェンスシステム）がある。今年度の本学男子バスケットボール部は主にこの二種類のディフェンスシステムを併用していくことで身体的なハンデを補うことを狙った。

これら二種類のディフェンスにはお互いにメリットもあればデメリットもあった。またそこには二種類を試合中に使い分ける難しさもあった。

そこで本研究では本学男子バスケットボール部の一年間の取り組みを振り返り、どんな練習を行いこのディフェンスを成功させたのか、またどのような取り組みをすればより良いものになったのかを明らかにしした。そして本学男子バスケットボール部の更なるディフェンス力向上のヒントを得ることができた。

2. 研究方法

【調査方法】

2010年度の本学男子バスケットボール部

【調査方法】

本学男子バスケットボール部の今シーズン通しての練習メニューの分析

本学男子バスケットボール部が行った試合のビデオ分析

*対象試合は本学男子バスケットボール部

3. 結果・考察

ファン・ディフェンスは常に基本に忠実で適切なポジションでディフェンスするという意識をコートにいる5人のプレイヤーが持つことにより、プレイヤーたちは個々の能力のなさを補うことができ、また、コート中央やゴール下を守るために、お互いが助け合うことができる。つまりこのファン・ディフェンスには研究対象のチームのように個々の能力が劣っていたり、サイズが相手チームよりなくともオフENSEを阻止できる、素晴らしいディフェンスであることがわかった。

ファネル・ディフェンスはコートに立つ5人全員がリスクを恐れず、自分のマークマンを捨てるような形でヘルプに行くことをルールとすることにより通常のディフェンスよりも早くヘルプ&ローテーションを行え、カバーの後のパスアウトに対してインターセプトも可能になり攻撃的なディフェンスを行うことができた。それは1対1が多いチームには機能するがパッシング・ゲームを行うチームにはポジショニングを取るのが難しく機能しにくいなどの欠点があった。そのためリスク・マネジメントとしてどのオフENSEにも比較的対応できるファン・ディフェンスが必要である。

従って、どちらのディフェンスシステムでもボールマンをマークしている選手が大切であり、「コミュニケーションの徹底」「一人ひとりの意識を徹底」をしていかなければならないことがわかった。